

コロナ下の学校経営 第4部 —運動会の実施—

前ジュネーブ補習授業校校長

東洋大学附属牛久高等学校非常勤講師 齋藤 寛

キーワード：学校経営、コロナ下、運動会、働き方改革、

赴任校の概要

ジュネーブ日本語補習学校

ECOLE JAPONAISE COMPLEMENTAIRE DE GENEVE

URL:<http://www.geneve-hosyuko.ch/>

児童生徒数：幼児部から高等部までで約370名

1. はじめに

教職人生の終着点を在外に求め、縁あってジュネーブという地を与えられた。自身3度目の海外赴任であった。感染症が世界的に蔓延し、5ヶ月に及ぶ国内待機の時期を経て学校の校門にたどり着いたのは、2学期始業式前日の夕方であった。2020年度はコロナ下の教育課程の実施が主な取り組みであったが、2021年度は、コロナとの共存がテーマとなった。

2. コロナ下の運動会の実施

(1) 2020年度の運動会

本校の運動会は9月に計画されていたが、当時のコロナの影響の先行きが不透明なのと私が赴任していない事情もあり、準備期間を考え5月の段階で、医師を含めた学校保健委員会では中止を決定した。当時のヨーロッパはパンデミックという状況で、まだコロナのワクチンも無く、みんながおびえながらも耐えているという状況で、日本人会の各行事も全て中止となり、運動会も中止せざるをえない状況であった。

(2) 2021年度の運動会の背景

2020年度の3学期は、ヨーロッパで再度感染が進み、補習校は、オンライン授業に切り替えた。しかしワクチンも行き渡り、コロナとの付き合い方が分かってきたため、運動会の教育的な意義を考えると、(運動会の形にとらわれず)何らかの形で2021年度の運動会を行いたいと考えていた。そこで、3月末の段階から「中止はいつでもできるので、実施できるとしたらどのような形か」を保健委員会と運動会部とで話し合いを重ねた。

新年度になり、州教育局の方針を受け、「他学年と混ぜてはいけない」「短時間」「保護者参観なし」の条件での実施なら可能だと結論した。また、保険としての第2案は、本校50周年にちなんだ別な学校行事の可能性も模索し続けた。

(3) 運動会は運動会をすることが目的ではない

学習指導要領では、運動会は「体育」ではなく「特別活動」に位置づけられる。子ども達・教師のモチベーションを高め、学校の求心力を維持するためにも意義の深い運動会を何としても実施したかった。また、これを好機にコロナで薄くなりがちであった保護者との連携を作り、同時に学校行事の近代化やスリム化を推進する具体的な方策を職員に知ってもらいたかった。ともすれば硬直化しがちな在外の行事である。積極的にプログラムをいじり、教員の業務を手直しする前例を作り、働き方改革を徐々に進めたいとも考えた。

以下は、2021年度の運動会の実施までのあらましを時系列でまとめたものである。

3. 2021年度の運動会の実施

新学期早々から、感染状況や当局からの通知等を検討し、保健委員会・運動会部で運動会の在り方を模索した。小回りのきかない補習校なので、状況を広範囲に吟味し、早目に見通しを示し、適切で柔軟な対応が迫られた。

(1) 5月28日「今年度の運動会について」を保護者に通知

刻々と変化する感染状況と、政府等からの規制の下で、運動会をどのように実施していくかを補習校では、運営委員会と時間をかけて話し合いを重ね、以下のように決定いたしましたのでお伝えします。9月の状況は予測がつかみませんので、今から準備をするとこのような形での企画になります。また、あくまでも現時点での決定ですので、今後も学校からの通知に充分注視いただけますようお願いいたします。

■決定事項

以下の①か②を実施します。基本的には以下の①で行おうと考えています。学校は州教育局の規程の他に学校の状況をみて②の実施になることもあります。

夏休み前に、①か②のどちらにするか一度判断し、仮決定内容をお伝えします。2学期準備週に再度検討し、最終決定内容を2学期初日までにお伝えします。このような日々変わる状況であるため、最終決定が遅くなりご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

	日時	場所	方法
①	9月5日(日) 午前 (幼児部中高学部) 午後 (小学部)	Centre sportif du Bout-du-monde	幼児部から高校部までの全学年が半日の「特別活動」(運動会に類する活動)を実施します。保護者観覧無し、異学年交流は行わない形式です。(競技に関する詳細は検討中です) ※(雨天の場合、感染症対策が十分に出来ないときは中止にします)
②	2学期のどこかで学級ごと通常授業時間帯に約2時間	補習校校舎内 もしくは校舎外	全学年が2学期のどこかの通常の学習時間帯に学級ごとの「特別活動」(運動もしくは文化活動)を行います。各学部、授業時間の一部を使用し校舎内外の活動です。(活動内容に関する詳細は検討中です)

■判断の背景

教育局の規定(最新4月30日版)に基づく補習校の決定事項

- ・保護者の観覧はできない
- ・食品の配布はできない
- ・競技の種類に制限がある
- ・会場での昼食の禁止

5月8日現在での競技場からの注意事項

- ・今借り上げているグラウンド・体育館以外の場所は他の日も含めて使用できない
- ・体育館の収容人数に制限がある
- ・無料キャンセルは15日前まで
- ・プラスチック製品の持ち込み禁止
- ・トイレへの同時入室は2名まで

(2) 6月16日「学校便り」

- ・夏休み明け初日(8月18日)に運動会の実施方法について決定通知することの予告。
- ・運動会に否定的な保護者に運動会のねらいを伝達する。

日本で行われている運動会は「体育」ではありません。それは人格の陶冶を目指した学校の行事です。学校便りでお伝えしてきましたように学校の目的は「人創り」です。その基盤を作るのが「学びに向かう姿勢」です。

文科大臣が「各学校で工夫して運動会を実施する」旨の発言をされましたが、その根底には「運動会の持っている得がたい価値」があるからです。今回は、例年のような運動会ではありませんが、子ども達の願いに少しでも応えるよう考えることで、その価値を損なわないようにしたいと願っています。

(3) 8月18日(2学期始業日)「学校便り」運動会実施通知(感染状況がよくなり、予告通り2学期初日に連絡)

9月5日(日)「特別活動」(運動会)を第一案で実施

午前(幼児部・中学部・高校部)

午後(小学部)

※ 幼児部から高校部までの全学年がそれぞれ半日で実施

保護者の方の観覧無し、異学年交流は行わないパビリオン形式

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、児童生徒、教職員、運営委員のみによる運動会実施とし、大変恐縮ですが保護者の皆様や他の皆様方の競技場への入場はご遠慮いただきます。

- 今年度の運動会は、パビリオン形式の4種目を児童生徒がクラスごとに1種目ずつ回って競技を行います。クラスまたは学年で赤、青チームに分かれ全校2色による対抗戦です。
- 開会式、閉会式は運動会前後の週の授業開始時や中休みにオンラインで実施します。
- 各種目を周った際に、スタンプラリーのようにシールを貼っていく「運動会パスポート」を配布します。

(4) 運動会実施での成果

- ・時間の短縮で半日化の実現
- ・職員の業務負担の軽減、雰囲気は更に良かった。
- ・学級役員さんの作業の簡素化
- ・準備の簡素化で経費削減
- ・開会・閉会の簡素化
- ・お菓子の参加賞の廃止
- ・練習時間の短縮で授業時間の確保
- ・子ども達のモチベーションや所属意識の向上
- ・運営委員、医師ボランティアとの協力

(5) 次年度の運動会での残された課題

コロナの状況を見て、以下の点を考えたい。

- ・保護者の参観の実現
- ・他学年との交流
- ・高学年のリーダーシップを育てる
- ・雨天の場合のプログラム

集合場所（小学部）



↑ グランドの各学年パビリオンの場所



↑ グランドの各ポイントでの競技



← 医師の医療ボランティア

4. おわりに

誇らしげに運動会パスポートを下げ、帰宅する子ども達の声がジュネーブの空に弾んだ。運動会を終えた学校では、子ども達の顔は輝きを増し、声がたくましく、一回り大きくなり、年度末までよい学習が継続された。

リーダーシップとはみんなに手伝ってもらふことであると、常に意識させられるのが在外勤務である。在外では1人の力は元より小さく、補習校では、子ども達、職員、保護者、地域の方々との連携は不可欠である。今回のコロナ禍の運動会が実現したのは、職員一人ひとりが、この子ども達となんとか運動会をやりたいとの強い思いが一丸となって、実を結んだものだった。